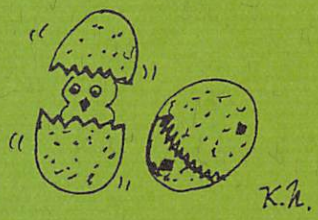
香葉

1990　　NO. 19

目　次

講演会のご案内……1
学長あいさつ……下田　哲……2
合同同窓会報告……3
女専のページ……4
異文化楽し……中根悦子……6
お元気ですか……8
覚え書……上市二郎……10
宮崎安子先生講演会……出　榮美子……13
五十歩・百歩とは違う……岡松和夫……15
香葉室……17
クラス会報告……21
県央のつどいへのご案内……小林　麗……24
坂田記念館献堂式……25
母校ニュース……26
決算・予算報告……27
賛助金寄付者名……28

表　紙……関　頼武
カット……成川勝子
　　添田いずみ



常に時代をリードし

－女性を勇気づけ男性を啓蒙してこられた評論家－

『吉武輝子先生　講演会』

今回は女性の生き方について多数の評論や著書で、鋭い切り口を私共に示して下さる、吉武先生をお迎えしてお話を伺うことにしました。ご期待下さい。

テーマ：女が輝くとき

日　時：1990年11月４日(日)

午後１：30～

場　所：図書館棟５Ｆ　視聴覚教室

▽講師の紹介▽

1931年　兵庫県に生れる。
慶応大学仏文科を卒業後、東映宣伝部に入社。

1961年　日本初の女性宣伝プロデューサーとなる。

1966年　東映退社、文筆生活に入る。作家、評論家として活躍中

主な著書

- 女人吉屋信子
- 舞踏に死す－ミュージカルの女王高木徳子
- 素適に女の老い
- わたしの姑仕度
- 愛すれど孤独
- 愛のうしろ姿
- 危機の家庭－女・性・政治
- 愛と誇りと
- 女の子の伸ばし方
- 首から下を子供に返せ
- ひとりっ子の育て方
- 女が自分と向きあうとき
- やさしく紡ぐ女の年輪
- のびのび子育て十二章
- ブルースの女王　淡谷のり子　　その他多数

★香葉会の部屋★ご案内

卒業生と在校生、教職員の交流の場として、又卒業生の部屋として３号館101号室にて、コーヒーとお菓子のサービスをいたします。お友達同志お誘い合わせの上お立ち寄り下さい。**<11月４日(日)のみの開室です。>**

現代の祈り

学長　下田　哲

「神よ
　変えるべきであるものについて
　それを変える勇気を我らに与え給え。
　変えることのできぬものについては、
　それを受け容れる冷静さを与え給え。
　そして変えるべきものと、
　変えることのできぬものを
　識別する知恵を与え給え」。

この「祈り」は、アメリカの神学者ラインホールド・ニーバーの祈りとして有名な祈りである。彼の告別式のカードにも印刷されたという。日本でも広く知られており、神奈川県知事の長洲氏も最初の知事就任の際に引用されたと記憶している。卒業論文にR・ニーバーについて書いたので、多少の知識をもっている私も、これを「R・ニーバーの祈り」と思っていた。

昨年（一九八九）十二月の朝日紙に、武田清子氏（I・C・U・名誉教授）が「受け継がれゆく祈り」と題して、この祈りについて書いておられるのを読んだ。それによると、この「祈り」は、実は、十八世紀のドイツのルーテル派の牧師・神学者フリードリヒ・C・エーティンガーの「祈り」にもとづくものだという。一九四五年度の「アメリカの母」（各州代表によって選ばれる）であったジョージアナ・F・シブレー夫人が、次年度のアメリカの母を選ぶ会議においてクレメント夫人という立派な家庭をきずく黒人女性を推薦した。当時はまだ差別の強い時代であり、シブレー夫人の推薦に大多数の州代表がいっせいに反対した。この時、シブレー夫人がこの「祈り」をささげ、この後、投票が行なわれたところ、満場一致で黒人のクレメント夫人が次年度の「アメリカの母」に選ばれた。これが人種差別運動の重要な先がけとなったのである。この「祈り」は国境・人種の別を超えて受け継がれてきた。氏自身にとっても過去何十年と心の深みにあって「私の祈り」ともなってきている。「『人類的真実』が実るための『変化』を導くこの『祈り』を受け継いでゆきたい」と結ばれていた。

米ソ関係にも、ソ連の国内にも、そして東欧各地においても、全く予期しなかった大きな変化が起っている。まさに激動する世界に私たちは直面している。この歴史の大きな変化の時代に、「変えるべきであるもの」と「変えることのできぬもの」とを冷静に、かつ、賢明に見分ける洞察と、「変えるべきものを変える勇気」が求められることを痛感させられる。

私たちの学校も所属している「キリスト教学校教育同盟」の教育研究委員会において、三月末に、「キリスト教学校――変えるもの・変らないもの――」というテーマを決定した。云うまでもなく、このテーマの背後には、前述の「祈り」がある。この時代の中にあって、本学も、過去の歴史と伝統を尊重しつつ、しかしそれに安住するのでなく、勇気をもって変革すべきものを変革しつつ、内外からの要請に応えて行かねばならぬと考えている。

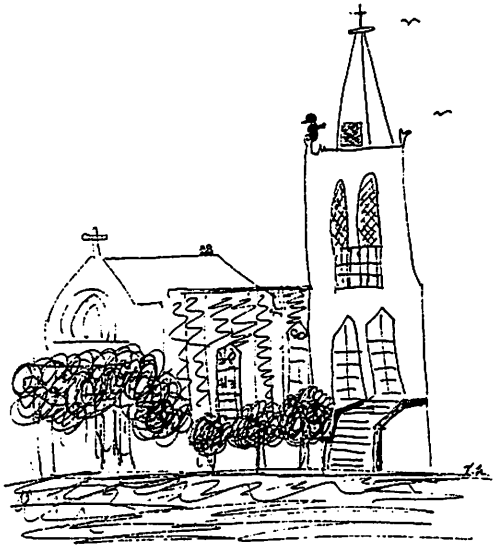
◇

「わたしはこう祈る。あなたがたの愛が、深い知識において、するどい感覚において、いよいよ増し加わり、それによって、あなたがたが、何が重要であるかを判別することができ、キリストの日に備えて、純真で責められるところのないものとなり、イエス・キリストによる義の実に満たされて、神の栄光とほまれとをあらわすに至るように」（ピリピ人への手紙第一章九―十一節）

◇

私の女子短期大学々長の任期も既に半分過ぎた。残された半分（二年間）、全力を尽くしたいと願っている。

卒業生・同窓生の皆さんの、夫々の地にあって、職場に学校に家庭における御健勝を心より祈る。



合同同窓会報告

合同同窓会の総会が、六月二十八日(木)、横浜国際ホテルに於いて開催されました。香葉会からは、相吉副会長はじめ幹事八名が出席いたしました。各部委員からの、各部会報告の中に、六月十四日に献堂式が挙行されました坂田記念館のショーケースの寄贈についての紹介がありました。（献堂式については別報告）合同同窓会の各部会にそれぞれの分担が割り当てられて、香葉会からは、二百五十万円の寄付をいたしました。

昨年十一月二十四日には、小田原市荻窪の地に関東学院大学法学部を建設の為の起工式が挙行されました。合同からは数名の幹事が出席させていただきました。小田原の緑多き環境の地に大学ができることは、関東学院の発展のために楽しみなことであります。

十一月二十五日には、燦葉会、香葉会の第九回県央のつどいが厚木で行われました。今年は十回の記念の会にしたいと幹事の方々がいろいろと計画をしているようですので、県央附近にお住まいの方はふるって参加をお願いいたします。

又、今年には、第一回の西湘支部の結成式がありました。西湘支部とは、小田原市を中心に活躍をしていく新しい支部です。県央と同様に、香葉会の人たちにも多く参加をしていただきたいと思っております。

西湘支部連絡先

西湘支部長　二宮　秀夫

〒250　小田原市栄町二ノ十三ノ一　TEL〇四六五―二二―八一二一

（葛城容子記）

女専のページ

（女専家二）斎藤（小泉）道子

私は、昭和二十五年に女専を卒業した後、横浜市教育委員会事務局に勤務して居りましたが、出産後家庭に入りました。その後、数年は、主婦専業で過していましたが、今は、関東学院から程近い所にある保育園の副園長をして居ります。

私共の保育園は、昭和二十八年に、私の父が地域社会のためにと、はじめたものです。

関東学院女子短大から歩いて十五分位の所にありますので、昔からなにかとおつき合いも多く、開園まもない頃は、関東学院の教会の方々が、当園を会場に集会を行ったりしていました。

その後、短大に、保育科が出来て、実習保育園として大勢の学生が実習に見えました。

又、卒業生の中で就職先に、私共の保育園を希望され、働いて下さる方々も大勢いらっしゃいます。その節は、学長初め諸先生方、事務局の方達に大変お世話になっております。

現在までに、一一名の卒業生が活躍して下さいました。

園児にも、学院に関係のある方のお子様とかがいらした事もあります。

最近、こんな事がありました。二年前、二才児で入園した園児で、面接のときにはお父さんが連れてこられました。お髭をはやした、若くて立派なお父さんで、私共の保育園の園児のお父さんにしてはどこか異色な方でした。オーストラリアから帰られたばかりとの事、日本の最近の幼児教育に戸惑われたとか、気さくに話されました。

彼（園児）の名は、愛称タンちゃん。まだお母さんの膝が恋しい年令でした。

しばらくして、保育園でバザーが催された時、タンちゃん一家も見えられ、私に祖母です、と声をかけられた方が何と、安村先生のお嬢様、樋口敬子さん（故安村れい子さんの姉上）でした。奇遇を喜び、知人の保育園だったので、安心なされた様でした。

その後、運動会等にもおみえになりました。タンちゃんも3才児となり、男の子らしく成長し、活発に遊びまわる様になりました。けれども今年、お父様のお仕事で、タイへ行く事になり、三月で退園しました。

退園する前、タンちゃんと私の会話。

「タンちゃん、今度外国へ行くんだって？」

「うん！タイへ行くんだ」

「先生タンちゃんに会いにタイへ行ってもいいかな？」

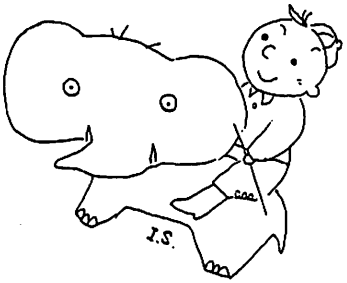
「……。先生タイって遠いんだよ。飛行機に乗らなきゃあーいけないんだよ」

「そーか、じゃー、ダメだね」

「うん」

早く帰れたら又来ます、と言うお母さんのお話で、彼は、飛行機でなければ行けない、遠いタイへ、旅発っていきました。

仕事をしていますと、思わぬ所で、思わぬ出会いがあります。今日も、こんな出会いを期待しながら仕事をして居ります。



みそひともじ

（女専家一）岩田郁子

病む母を遠き施設に送りゐて見舞ふたび思ふ
週の長きを

心急き母を見舞ふと降る雪につけるチェーン
のわが手に重し

娘のわれの来るのをひたに堪へて待つ母か寂
しき笑顔をみする

病床に義姉の持ち来し寒木瓜を愛らしと笑み
て母眠りたり

初日光に咲き揃ひたる水仙の薫りてひとりの
膳を眼はす

人の手に生りたる若菜購ひて正月七日の節句
を祝ふ

風未だ冷たき庭に白梅の蕾ほぐれて春は来る
らし

初孫の生れしを告げて友の言ふ「不請不請に
祖母となりぬ」と

祖母と言ふ座に置かるるを厭ひたる友が赤子
の傍へ離れず

漸くに歩み初めたるをさな子が靴持ちて呼ぶ
厨の母を

弟に母を奪られし幼な兄一人遊びに「死め」
とつぶやく

絶滅を気づかはれゐしオオムラサキ子らの心
に応へ来て舞ふ

葉を落し艶つやしき実残したる柿の木ありて
続く街道

（折にふれて書留めたものゝ中から）

在学中三年間は学業そっちのけで遊尽にすぎてしまった。それでも友人達のお力添へでどうにか就職し三十年余を勤め退職した。そして今、あり余る程の自由な時間に辞書を読む（ひくではない）面白さに気付き、ついで三十一文字をまとめる、これを毛筆で書きとめる。と云ふような事に興味を持ち始めた次第。これは在学中いつの間にか、学ぶ心とその面白さを植えつけて下さった諸先生と学院のお蔭によるものと感謝しつゝ、六十の手習を楽しんでいる昨今なのです。

（女専家一）佐藤久子

家政科一回の卒業生は、毎年かかさずに集りをもっています。昨年は五月末、有志九名でしたが、一泊の越路の旅を楽しみました。行った先は、同級の山本祐子さん（山田流琴曲師範）の住む新潟市。写真は芹沢雪子さんのカメラで、弥彦山での一同のチーズです。丁度卒業から四十年目のいい記念となりました。その内、福井（前川さん在住）にも行く予定です。

異文化楽し

中根悦子

人が集って一緒に暮すには、相応のルールを守る必要がある。同じ国の人でも、色々と違った作法、習慣、好み、話し方の差があるので、周波数を合せるのは容易でない。まして、外国からの訪問者と生活するにはときに問題がある。私達が、外国でホームスティしたり、その環境に溶け込もうとするのに戸惑いを覚え、拒否反応を示すことがあるのも当然だ。私が此処一年の間に、交流を持った二、三の例を紹介したい。

最近、ロンドンから帰国したSに話を聞いた。彼女は、短大を卒業すると保険会社に入社し、十年勤務した。Sはかねがね英国へ旅をして、何処かでホームスティをし、語学研修を受けたいと願っていた。Sの家族は、夫と五才になる息子の三人で、母が経営するアパートに住んでいたから、話合いの末、留守中は、時折、母が夫に食事を作ることで夫が理解を示し承諾した。旅行社の斡旋で、週五日語学研修を受ける間、子供を預かってくれる条件付の家庭がロンドン市内に決まり、Sはルンルン気分で出掛けた。

現地に着いてみると、ホストファミリーは、親しみ安く、物事をはっきり言う夫婦と、可愛い三人の子供だった。イギリスでは、一つ屋根の下で生活する者は、客扱いせず、家事の分担をすると言う。当然Sも責任を感じ、昼間出掛けるので、夜、子供の面倒をみることになった。然し、Sが研修に出ようとすると、息子が不安がって、母の手を離さない。夜、夫婦が外出すると、四人の子供の世話で勉強どころではない。旅行社であらかじめ計画してあった、何回かの観光旅行も殆ど参加出来ずに、予定を半分に切上げて帰国した。Sはがっかりしているが、私は素晴らしい体験だと思う。Sと息子は話し言葉を勉強しただけでなく、英語を母国語とする人々に触れ、その社会を知り、家庭生活を味わい、独立独歩の精神を理解出来てきっとこれから大いに役立つと信じる。

Kは、海外から東京への語学研修にくる留学生に部屋を提供している。先日、私はフランス系カナダ人を紹介された。彼は一見、礼儀正しく、ユーモアを解する好青年だが、Kは彼に問題があると言った。フランス人は、身体から出るものは、不潔と考えない。従って、めったに入浴しないし、トイレに行っても手を洗わない。その上、下着を着ないので、ワイシャツの裾が汚れていたり、ジーパンが臭うことがある。過剰包装を嫌って、パンをむき出しのまま抱えて帰宅し、ポンとテーブルに置いて、皆で食べるのは少々抵抗がある。

然し、感心するのは、彼が徹底して自由で、干渉されず、束縛されるのを嫌い、一方、他の人を差別したり、邪魔しないし、迷惑を掛けない。私達は、とかく欧米諸国の先進国の人を最も文化の先端を行く人と考えがちだが、以外に古い伝統やしきたりを重んじているのに驚いた。

インドから来日した、Rに興味深い話を聞いた。彼女の先祖は、代々君主に仕える祭司だったので、インドの社会では最高の階級に属していた。然し祖父は、そのような官僚主義や権力に疑問を持ち、差別を嫌って、自由平等を求め家を出た。そして、自分が育った贅

沢な住い、親しい家族、友人、財産等全てを失った。祖父の家族は、最も低い階級の人々と暮し、キリストの救いによって心の平安を得た。祖父には高い教養があり、全ての人が等しく教育を受けるべきだという信念があったので、学校を開き教育者として新生活を始めた。現在、カルカッタの近くに、大きな私立の学校を経営し、Rはそこの学長として活躍している。

帰国する前の二日間、渋谷のゲストハウスで休んでいただくことになり、私はRを案内してそこへ行った。鍵を開けて中に入り、スイッチを押して電気をつけた。Rがお茶を飲みたいと言うので湯沸器の電源を入れ、カップにティーバッグを入れた。続いて、シャワーとお風呂の使い方を説明し、Rの帰りの航空便の予約を電話で確認した。用事が済んだので帰ろうとすると、Rは私に抱きついて一緒に泊ってくれと言った。何故かと尋ねると、この様に機械ばかりに頼る生活は怖い。若し間違ってスイッチを押したら、変な音がしたり、戸が開いたり、火事が起こるかもしれないと言う。Rは堂々とした体躯の人で、品性、知性、プライドが非常に高いが、その生活環境は全く別問題なのだと教えられた。

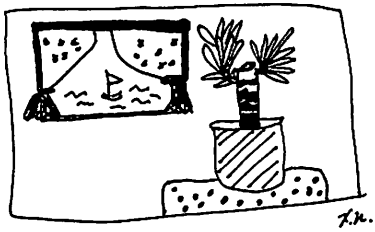
昨年、私はオーストラリアのシドニーへ旅して、M宅に泊めていただいた。三年前、Mが日本から現地に赴任して、子供を学校へ編入させたとき、クラスの母親の一人が親切に電話をくれたそうだ。Mは新らしい学校での行事等知りたいことが沢山あったので、とても助かった。やがて、その婦人と教会へ行き、婦人達が開いているお茶の会のメンバーに加わった。そこには、アジア諸国の多くの女性が参加していて、オーストラリアの言葉、生活習慣、好まれるマナーについて熱心に質問している。婦人の中には、オーストラリアの家庭料理、ケーキやクッキーの講習をする人、韓国、タイ、インドネシアの料理でもてなす人、歌や音楽を披露する者もいた。

或時、Mが年配の夫人から家族のことを質問され、十分に答えられなかったのが残念で、家に帰ってから、ノートに英語で書いてみた。次の機会にその夫人に会って見せたのがきっかけで、毎週、日記を見て訂正して貰い、英作文の力がついたとのことだ。婦人達は、お互いに、自分に出来る隣人愛の行為をこうして、よい交流をもっている。ごく自然に、自発的に、時間を裂いて、報いを求めずに楽しんでいる。これこそ、ボランティア活動の精神の原点ではないだろうか。

此処数年の間に、日本から海外へ旅行する者が非常に増えている。又、最近、私達の周囲には、目に見えて、肌の色の違う人々が多くなっている。様々な目的で滞在する人々と何時、何処で出会い、拘り合うことになるか解らないし、関係がないとは言えない。今日、交通機関が発達し、自由に情報が飛び交うなかで生活している私達は、国際間の異文化や、習慣の違いにもっと関心を深めて、よく知る気構えが欲しいと思う。

女専英一回卒

お元気ですか？？



なつかしい先生方からの近況です。
学生時代に戻って思い出を……。

香葉会とこの頃の私

富田　富士雄

平潟湾を隔てて対岸にあるマンションの八階の私の部屋から毎日、短大の白い校舎を観ることができます。

現在の私は講義はしていませんが、読んだり書いたりの研究生活は相変らず続けています。そして時々、理事長をしている田浦の横須賀キリスト教社会館へでかけます。ここは保育所や高齢者のためのデイ・ケア・センターなどのある地域福祉施設ですが、職員には関東学院女子短大の卒業生が多くいて活躍しています。現在の一番の先輩は国文科と幼児教育科の両科を卒業した深津俊江さんです。そして毎年新規採用者のなかに必ずいる後輩を良く指導しています。

私の妻は横浜ＹＭＣＡの戦前からの会員で現在もその理事長をしていますが、いつもその会員にも職員にも関東学院女子短大の卒業生がいて活躍していると話しています。特に外国人留学生のための事業など、国際的分野等に特色を発揮しているようです。

私は自分の生涯の研究課題としてコミュニティ問題をとりあげてきました。そして最近では特にコミュニティ・ケアについて読んだり書いたりしています。その場合によく筑波大学教授の中村八郎氏の書いたものを参考にします。同氏はこの分野での日本における権威の一人です。この中村さんは短大の前身、専門学校時代の卒業生です。香葉会の会員には中村さんのような男性もいるのです。なを、中村さんには大学に社会学科を開設したときにたいへん助けてもらいました。

私は在職中には短大で直接教えたことはありませんでしたが、このように現在各分野で香葉会の会員が活躍している姿に接して喜んでいます。

大学名誉教授・顧問

近　況

桑川　光樹

この前この誌面で「近況」をご報告したのは、たしか一九八〇年のことであった。それで今回は主としてその後十年の「近況」を書かせていただく。

関東学院から移って八年勤めたフェリス女学院大学国文科を、私は一九八一年三月に辞めてシンガポールに移住、シンガポール国立大学に新設された日本研究学科の長として四年を過ごした。そこでの仕事は、かなり心身消耗するものだった。それで、その間10キロ

ばかり痩せてしまった。一九八五年春帰国、翌年四月からこれまた新設の明治学院大学国際学部に勤めて今日に至った。帰国後二年ばかり、古巣の関東学院女子短大の国文科に非常勤講師としてお世話になった。このころ、10キロ太って、もとの体にもどった。ただし、増えた白髪は回復しなかった。

明治学院大学は、東京白金台と横浜戸塚との両方にキャンパスがあるが、私の属する学部は戸塚の方で、鎌倉稲村が崎の自宅からは比較的近い。長谷、梶原、大船、笠間、というふうに抜けて車で行くと、一時間足らずで着くことができる。私がそこで担当する科目は、なかなか雑多な種類である。日本人学生対象の講義は「日本文化特論――上代文学――」と「日本研究」、演習は「日本事情教育と日本語教育の研究」、それに昨年までは「日本語教授法」もあった。外国人留学生対象では、主としてアジアからの学生に「日本事情」を、主としてアメリカからの学生に「日本語と日本文化」を教えている。毎年三月から四月にかけて、ゼミの学生を連れてマレーシアとシンガポールの日本研究諸機関を歴訪するのがならわしになった。縁というのか運というのか、留学生関係の仕事が多くなり、東奔西走と言えばまだしも、実は七転八倒のありさまでその世話係などつとめるうちに、また体重が減りはじめ、いまは再び10キロ減の状態である。白髪はかなり減ったが、その分黒髪が増えたわけではもちろんない。

それはさておき、今の私の研究テーマは、「上代日本文学の時間論的研究」というので、印度的な時間意識と、中国的な時間意識が原日本的な時間意識とどう交渉したかという点を、上代文献のワクの中で調べている。前途遼遠のテーマであって、われながら、アイデアはおもしろいが結果は期待できまいと考えている。

前回の近況報告では「釣り」のことを書いたが、湘南水域の魚にとっては幸せなことに、私は釣りはあれきりでやめてしまい、一九八五年から絵の勉強を始めた。実は若い時からの願望がそれまで果たせなかったのだった。今はクロッキーと油絵をやっている。人物や静物も描いていて、それはそれなりに楽しい。私たちはふつう、線や輪郭で物を見ているようだが、それとは別に、色だけで、または光だけで世界を見たり、カタマリで見たり、存在感の軽重で見たりする見方もあるのだということに気が付いたのは収穫であった。そして、われわれの生き方にもそんな色々があるのかもしれない、などと思うようにもなった。

以上、およその近況をつづった。グラス片手にこの文を書いているうちに、やたらと六浦恋しい気分になってきた。では皆々様、よい毎日を。

元国文科助教授

覚え書（十八）

――女専・短大小史――

上市二郎

早いものでまた新しい年の緑の季節を迎えた。昨年十一月に七十歳の節目を通り過ぎ八十に向って着実に一歩一歩前進している今日此の頃である。会員の皆様如何お過ごしでしょうか。思えば平成二年（一九九〇）は短期大学が発足して満四十年を迎えた年である。昭和二十五年、百二十三、四校位で始まった短期大学も今では私立短大だけでも四百七十七校余を数え、国立、公立を含めると、なんと五百七十余校という盛況である。我が国の高等教育に於ける重要な役割を担っていると云われるようにまで発展し、社会に貢献してきたのである。また、学院内では、長年懸案となっていた初代院長坂田祐先生を記念する坂田記念館が、学院内各校と合同同窓会並びに霞ヶ丘教会との協力の基に、この六月中旬三春台校地の宣教師館跡地に完成する運びとなった由、大変喜ばしい次第である、と同時に特記すべき年である。

さて、前号では昭和三十一年六月に県立音楽堂で上演したシェイクスピア英語劇の様子を記述した処で終った。今回は七月の夏の行事等に入るのが順であるが、少々紙面を割いて記録して置きたいことを挿入してみた。

以前にも再三述べたように、大学校舎は旧海軍航空技術廠工員養成所跡の建物を使用していたので、旧大食堂が講堂として使用されていたことは前号でも述べたが、この頃図書館は旧大浴場を改装して利用していた。そのため大学執行部は、常々大学の中心的な役割をなす図書館の建物のことが頭にあったのは云うまでもなく、理事会では密かに話題になっていたようである。なんといっても財政的に苦しい時代であって、新しく建物を計画するにはそれ相当の資金が必要となるのは当然の事。ところが、大学・短大共用の図書館を建設するという話しが短大へ突然（私には突然に感じられた）伝えられ、協力するようにとのことだった。その時桧垣好子先生は次のようなことを口にされていたことを思い出した。「これはね、坂田院長のインスピレーションですよ。インスピレーション……。」これについては、去る四月の天城山荘に於ける大学・短大教職員研修会（前号記述）の折、突然坂田院長にインスピレーションが生じて具体化する方向になったとか。そして一番心配されたその財源は？　それは大学及び短期大学から夫々年次計画のもとに資金を捻出拠出し、両校教職員全員からも一人五千円を寄付金として集め、それを充当することになった。学生に対しては図書館建設のために、昭和三十一年三月から三十三年三月までにかけて、一人月額二百円を分割納入してもらい、合計で五千円を醵金してもらうことになった。文字通り両校の総力を結集して昭和三十二年二月に完成した。場所は旧ルツ寮（後にルツ館として学生の各クラブ部屋に使用していた建物）の北側で、焼け跡の基礎が残っていた。ここは古い建物六号館だったろうか。その上に二階建の図書館が出来上がったので、他の建物と同じように東西に細長いものだった。北側の書庫専用部分は三層になっていたが、二階南側半分は閲覧室が設けられていて他は研究室、研究所、資料室などになっており、短大は研究室の二部屋と半分が割り当てとなった。些か少し少ないように感じられた。大学、短大の規模に応じた比率から割り出されたことだろうが。三月四日に図書館に献堂式を挙行、

そして落成披露が行なわれた折、白山源三郎先生が「横浜随一の図書館が完成したんだよ。」と笑みをたたえて喜んでおられた。あの時のうれしそうな顔が今もって忘れられない。四月を迎え新学期から業務を開始したのである。

（昭和五十四年十月に大学の新図書館が竣工落成したことに依り旧ルツ寮の建物及び共用だったこの図書館は残念ながらその姿を消してしまったのである。）図書館の完成に依り今まで使用されていた旧大浴場跡は短大の家政科の被服関係実習に改装され使用することになり、それまで大講堂横にあった狭い小さな家政科研究室もこちらへ移ることになったのである。この建物は広いので間仕切りすれば色々に利用でき、東側に当る部屋では放課後米野理愛先生が指導されて華道、茶道の稽古が盛んに行なわれるようになったことなどを思い出す。そう述べてくると、この頃は女子教育の教養に必要な音楽室もなく、普通教室を使用すると他の授業にも差し支えるので安藤寿々代先生は困りぬいていた。そこでキリスト教研究所の礼拝堂を借用したい旨申し出てみたが、近々防音設備をしてパイプオルガンを入れる予定なのでそれまでは何とか工夫して授業を続けてほしい、とのこと。そこで、一号館東側に宣教師夫婦が校内居住しておられたので、相川部長から交渉して宣教師宅の集会室を当分の間、音楽室として使用させてもらうことになった。これで他の教室への影響はなくなった。などなどが思い出されてきた。

次に「図書館が完成次第短大では二号館校舎を使うことにして永年計画を立てることになった。校舎の使用区分等について先生方各自で研究され意見をよせられたい。」と、昭和三十一年五月の教授会で相川先生から方針が打ち出された。思えば昭和二十八年と九年にかけて三春台校地から六浦校地へと、移転してきた短大は、大学キャンパス内にあって間借り住まいの感が多く、何をするにも遠慮勝で早く自分達の城が欲しいという気持ちで一杯だった。だが、やっと曲りなりにも自分達の専用の城らしきものが持てるかな？と淡い希望が生まれた。何しろ殆ど男子学生で占めていた大学（昭和四十三年大学に文学部が設置されてからは次第に女子学生も多くなった）の中に小数の女子学生が生活するには、独立しての女子の高等教育の和やかな家族的な雰囲気を作ることが非常に難しい時代だった。そして六月の記録には次のような相川先生からの報告が記載されていた。「私学資付金の許可がおり百萬円借りられることになったので近々二号館校舎の改築設計をしたい。先生方で意見があれば申し出てほしい。教授の研究室は階下を使用するよう考えている。」

（昭和四十五年当時の文部大臣坂田道太氏が私学に対する経常費補助金制度を確立する方針を打ち出されて、翌年これが私学助成金制度として発足、今日に及んでいる。しかし当時は文部省の中に私学振興課があって戦災復興等で困っている学校が申請すると、その事情、内容を検討して該当私学に対して低利で資金を貸し付ける業務を行なっていた。）夏の休暇中を使って改築する筈の処が、七月に入って大学の教務課からクレームが出された。「合併教室が不足しているので、二号館二階の大きい講義室を短大専用の普通教室に改造されては困る。一階では大きい部屋を造ることが、建物の構造上不可能だから、是非計画

を中止してほしい。」（当時としては大学も講義室が充分でないのでこの申し入れは、教務課の立場上判らないでもないが……）このようなことが生じたので種々検討を重ねた結果、夜間の商工高等学（昭和四十八年三月まで存続）が使用している一番程度の悪い三号館二階を改築することになった。この建物は良く短大の歴史を語るとき話題になる校舎であって、教室の窓ガラスや出入口の戸はガタガタ、前にも述べたようにヘリコプターの騒音と窓ガラスの音で授業が妨害されたこと。特に廊下は所どころ板が腐って穴があり、階下を歩く人が見えるとか。そして予定通り校舎の改築工事は夏の休み中に実施した。女子専用の手洗所、更衣室が優先的に上げられ、問題の廊下も新しく板敷きに代った。女子学生からの提言もあって階段の手摺り下が吹き抜けになっているため、階下を通る男子学生の目につかぬよう板張りにするなど、一応要求も取り入れられて細かな工事が行なわれた。教室、廊下等を含め内装の化粧仕上げは、当時色について研究されていた大河原泰之先生に依頼した。そして先生方の控え室は夜間の商工高校の教務事務室を使用し、午後五時には明け渡すという条件で共用使用することがまとまった。一応九月の学期が始まる頃は総て完成していた。この頃英文科第二部の授業は二号館の一階を使用していた。

戦後新しく短大制度ができ、本学院も二十五年から関東学院大学短期大学部として英文科、家政科は三春台校地で、経済科、工科は六浦校地で発足した。学長坂田祐先生、部長に相川高秋先生が就任した。その後諸般の事情に依り三十二年三月末で経済科、工科は廃止することになった。女子専門学校を母体とした英文科、家政科だけが存続し、この年の五月末には名称も関東学院短期大学となって再び独立の形を整えた。その折の学長は代わって白山源三郎先生となり、七月には相川高秋先生が三代目学長に就任した。これを機に名称も女子を付けた方が良いのではないか、との意見も出されたが、昼間部女子だけの教育機関であっても、二十六年に認可された英文科第二部の夜間共学があったのでそれもできなかった。当時は入学要項にも昼間部女子のみと註記したものだ。入学案内パンフレットに載せる建物も貧弱で、表紙絵になるものもなく、主に海を背景に構図を考えるという苦労もあった。また、当時は実験実習の機械器具備品が最小限の設備しかできなかった。そのような時、女子教育を行なっていた家政系の大学に対し電気メーカー各社から教育援助として家庭電気製品が沢山寄贈されたことがあった。本学には声がかからなかったので問い合わせるみると、総て校名に女子の付いている短大で、本学は余り世間に知られず大学の女子部ぐらいにしか考えられていなかったことが判って非常に残念に思った。この様に記してくると想い出すのは、短大制度も初めは暫定的な措置として発足したため、毎年一定時期に文部省へ教員組織表一覧を提出することが義務づけられていた。英文、家政両科は女専からの昇格で学科目や担当職員について良く理解していたが、経済、工科については夫々の学部との兼ね合いもあって皆目判らず大学教務課や両学部事務室と相談しながら書類を作成し文部省へ提出した。当時は仲々こみいっていて苦労が多かった。この暫定制度も三十九年の法改正により短大制度が恒久的なものになってからは、各短大の特色を活かした自治で運営されるようになり、今までのような報告義務もなくなった。

余りにも紙面を使い過ぎたので夏の行事等は次回に記述することとする。（つづく）

宮崎安子先生講演会

バングラデッシュに生きて

神には価値観の逆転ということがある。日本に久し振りに戻って神は日本を滅ぼそうとしているのではないかと思った。

シュバイツァーが本当に偉いのが分った。自分達は熱病で帰されたりした。彼のように先づ自分の健康管理が出来ていなくてはならない。

ご夫婦医師として、子供を連れ家族ぐるみ長い間医療活動をしていらした宮崎安子先生が、現地で記録されたスライドを一枚ずつ説明して下さった貴重な体験談である。

赤十字からせっかく医療品が来ても、現地に着く前に何台ものトラックが行方不明になってしまう。道の無い所は舟で行くが、ワニ、サメ、毒蛇に大トカゲが河にはいる。二十六年前には人喰部落もあった。村のマーケット前で食料用の動物を処理すると、その血の匂いにハゲタカが集まる。伝染病の他にガンに侵される者も多い。ガンはビールスによるものらしい。

バングラデッシュはイスラム教徒なので、女性は女性の医者にしか掛からない。その上、医者は卒業教育を受けないで働くので注射をうつのから仕込む。日本でインターン教育に手を借すことも良いと思う。

産婦の世話で忙しい間に、産まれたての赤ちゃんが痙攣を起こしている。調べると背中に蟻が入っていたりする。木にハンモックを吊り、蚊帳をしておかねばならない。民家をかりた診療所の内は、輻射熱で四十度から五十度にもなる。

大洪水のあとは降雨量の四倍の水が流れる。チベット、ネパール、インドがそれぞれダムが一杯になると放流するので、このバングラデッシュニにひたひたと水が集まってしまう。流れの中には毒蛇がいる。二十五種もの毒蛇が棲息している。野性の動物にも咬まれて死ぬ。

洪水になってもお父さんや子供が残って番をする。逃げ去ると他人が入って住みついてしまう。家は藁屋根、竹組みが良い。洪水のあとすぐ乾く。土の家は上等とされるが水に弱い。自然や野性動物と闘わねばならないので、国家予算の三分の二がこれに消える。

食事は、父、兄、叔父、子供、姑、嫁、子持ちの順なので妊婦が食べる頃はおかずは無い。御飯に塩と水をかけて食べるだけなので栄養失調となり、生まれた子も体重が少ない。妊婦に食料を上げても持ち帰ると順に食べるから子持ちの母まで来ない。洪水のあとは一ヶ月以上、牛も食べない浮草を食べている。援助に御飯をもって行けば大勢が来る。村中のことは分っているので、しらべて本当に働き手を失った人から助けることにしている。

村の人は明るい顔をしている。子供達も、それぞれ大切な働き手であり、部落にとって自分は大切な人であると自信を持っているし外部のことは知らないのでくらべない。祖父も父もやって来たことを尊敬して継承してゆく。

世界人口全体の二十パーセントの人達が、全食料の四分の三を使い、残りの四分の一を八十パーセントの人達が分けている。先進国の捨てている食糧の二十パーセント、七〇億円でアフリカの飢餓地域の全員が救える。

障害者は大切にされる。年寄りも皆から声をかけられる。プライバシーが無い程村人相互の交流がある。

日本人が障害のある子を持った。それを嘆いたらそのドイツ人の妻が、この子は幸せな子、皆から可愛がられる。と云ったという。

自然が厳しいバングラデッシュの人々の生活、スライドに次々と写っている。皆から構われて心の幸せな年寄り、幼児、仕事を一杯もって責任と自信に輝く子供達の黒い瞳、動作も生き生きしている。着ているサリーは一枚っきり。赤ちゃんのおしっこを拭き、料理の手を拭き、風呂敷がわり、タオルがわりに何にでも使う。

あっちこっちで、講演のあといわれた。ほんの一部の人々の飢えを救ってどうなる。バングラデッシュの政治はどうなっている。

マリア・テレサはこう云っている。私は一人の面倒をみる。手があけばもう一人を。群集の世話はしない。

ジグソーパズルの一コマが自分だと思ってほしい。一コマだけではゴミと同じ。でもその一コマがなければパズルの絵は完成しない。

大きいことをするのではなく、隣りの一人に何かしてあげて。

要約　出　榮美子（女専英二回卒）

五十歩と百歩は違う
― 大城冨士雄先生の思い出 ―

岡松和夫

昭和四十一年四月に国文科が創立されてから、十年間を本学専任教授として働いて下さった大城先生が、平成元年九月一日に亡くなられた。八十六歳であった。本学を退職されて十三年ほど経っていた。

先生は京都大学国文科を卒業して旧学制の第三高等学校に十年ほど勤務された。当時は第二次世界大戦中で、教授であると共に生徒主事を兼ねておられたから、その仕事は容易でなかったと思われる。学生たちの一部は反戦的だったろうし、それを警察は容赦なく取り締ろうとしたに違いないのだから、先生は随分苦労されたようだ。

そのことで、何度か話を聞かせて頂きたいと思ったが、ついに具体的なことは何一つ教えてもらえなかった。しかし、いつだったか、五十歩と百歩は大いに違うということを言われた。私は、人間の努力というものは、思う通りにならなくても、努力相応の意味があるものだと解して、これは先生の大事な信念の一つなのだろうと思った。そして、それを第三高等学校時代の先生の経験に結びつけて理解した。

ことわざの「五十歩百歩」は、先生の言われたことと正反対になる。あれこれと努力しても、客観的に見て格別差があるように見えないと、人は冷淡に「五十歩百歩」などと評する。しかし、考えてみれば、五十歩と百歩は大いに違うのではないか。

大城先生は戦後、東京学芸大学に勤務先を変えられ、定年退職後の六十三歳から本学に来られたのだが、短大での教育を隠居仕事のようには考えておられなかった。短大運営の中心組織である教授会でも真剣に発言された。長い間学長をされて現在の短大を作るのに全力を傾けられた家政科の林淳三先生と大城先生は、教授会の活力ある両輪だったと言ってよい。

毎年のリトリートでも、大城先生は国文科の中心として学生に話をされた。その殆どは国文科誌「平潟」の巻頭エッセイという形で残っているので、興味のある方は読んでみてほしい。

そのなかでも、「駄弁的人生論」と題された一九六九年のものは、先生が自分の生涯を語られたもので、先生らしさのよく出ているものである。

第二次世界大戦の頃、先生のような青壮年期の男子は、いつ召集されるか分らなかった。一兵卒として軍隊組織の中に加えられ、戦場に駆り出される。先生は、その召集が一番こわかったと言っておられる。それも戦場での死が恐ろしいというのではなく、軍隊組織の末端にいながら、自分より下級の兵士を非人間的に侮辱する古参兵の存在が耐えられないだろうというのである。「ひょっとすると、私は相手を殺しかねない」と書いておられる。それよりもっとこわかったのは、死ぬほど殴られているうちに、自分がその屈辱をしのぶことになりはすまいか、それが一番恐ろしかったとも言っておられる。

先生は勿論、そんな場合も、筋を通して、がんばれるだけはがん

ばるつもりであったはずだ。幸い、先生に召集令状は来なかったが、第三高等学校の学生を連れての工場動員が続く。先生は、学生たちのために百パーセントの望みをかなえることができない場合も、一〇パーセント、一五パーセントと努力を重ねられたようだ。それが、五十歩と百歩は違うという人生上の信念になったのだと思われる。

現在の本学には学生部長という職があるが、先生がおられた頃は、その仕事を学生主事と言っていた。

ある時の教授会の席で、先生は「学生主事という職は学生のためにあるので、学校のためにあるのではない」と言われた。その言葉を聞いた時も、第三高等学校生徒主事時代の経験だなと思った。

また「学校が間違っている場合は、率直に学生に謝るべきだ。大学の権威などということのために沈黙したりするのはおかしい」と言われた。これも戦後のストライキの多発した大学での、教授・学部長として経験が言わせた言葉のようである。

大城先生は学生時代に剣道をやられていたそうで、精神は勿論その姿も「毅然（きぜん）」という言葉が似合っていた。それでは、先生の「毅然」を支えていたのは誰であろうか。

第三高等学校時代には何人もの、すぐれた年上の先生たちがおられて、先生が自分を鍛える手懸りになったようだ。しかし、先生自身語っておられたが、先生の奥さんの役割は大きかったようである。

先生は奥さんを「大事な友人」と言っておられた。それも次第に互の理解を深めて、（何年もかけてだろう）、最も親しい友人となられた。敗戦直後、先生が第三高等学校を辞めたいと思われた時、その気持ちを素早く見抜いて、「学校をおやめになっていいんですよ、何とでもなりますよ。」と言われたのが奥さんであるという。

こういうことも、なかなか耳にすることの少ない、いい話だったなあと私は思っている。

大城冨士男先生「平潟」掲載目録

讃岐典侍日記の歌　創刊号（昭43・11）
駄弁的人生論　第2号（昭44・12）
『門』―偶然・運命・天・神―　第3号（昭45・12）
非信者漫語―キリスト教日本派―　第4号（昭46・12）
リトリート主題講演『おバカさん』雑感　第5号（昭47・12）
リトリート主題講演『わたしが・棄てた・女』　第6号（昭48・12）
私の明治（一）―唱歌―　第7号（昭50・1）
私の明治（二）―片瀬―　第8号（昭50・12）
すみません　と　ありがとう　第9号（昭51・12）

★追悼連絡

国文科教授・千葉義孝先生が、平成二年六月三日・午前五時二九分・悪性リンパ腫により永眠されました。

謹んで哀悼の意を表すと共に先生のご冥福をお祈りいたします。

香報室

この欄は、卒業生の皆様の消息、感想文、等の発表の場として用意いたしました。今回も引き続き、昨年の講演会出欠通知から無断で転載させていただいておりますが、短大香葉会「香葉」編集局宛、次号への原稿などお送り頂ければ幸いです。

七月二日、林先生の感謝の集いに出席する事が出来て楽しいひとときを過ごさせていただきました。諸先生方のお蔭で今の短大のある事を思い、感無量でした。女専、家政科一回生、半地下室で煙もうもうの中で七輪で火をおこし、かぼちゃのジャムなど作ったり、冬はストーブがないのでオーバーを着たままで良いとの先生のお達しで授業を受けたことなど遠い遠い昔になりました。卒業生の皆様が吾が子よりはるかにお若くオバタリアンを通り越した自分に驚いています。

横浜市　藤城栄子（女専一回）

私も三十才になりましたが子どもはおりません。ある協会に賛同して南米コロンビアに養女を持ち、要するにその地域への金銭的援助を少しばかりしています。文通もひんぱんです。コロンビアの人々はとても情熱的。楽しいです。クリーニング店店員からパートで銀行勤めへ。ここでは学校で習った会話やタイプがとても役に立ちます。外国為替なので。顔は日本人、話すと英語、これはぬきうちテストだなーと感心することも。

東京都　関谷由利子（54英文）

卒業して早や十五年、あっと言う間だったような随分昔のことのような……。今は二児の母としてただただ育児に追われる毎日で短大時代を思い出すことも少なくなって。それでも年に一度送られてくる「香葉」はしばし（私に）なつかしい学院のあれこれを思い出させてくれるありがたい"誌"です。（毎年ウキウキ、ドキドキしながらページをめくっています）学院の発展と香葉会の益々のご活躍を祈念いたします。

東京都　佐々木晶美（48英文）

香葉No.18号有難く拝読致しました。文中、小玉先生の書かれたオンボロ校舎から私達は巣立ちました。光畑先生の授業は恐くて一番印象に残ります。それとシェクスピアの十二夜を上演した事です。係りの方々から夫々メイクアップしてもらい一同整列すると顔を思わず見合わせたものです。上市先生の覚え書にも述べられる通り、当時は英語劇が学院のハイライトでした。もう三十年以上たってしまい、私も定年後ぶらぶらして居ります。

横須賀市　生亀喜久松（32英II部）

謹啓、私もお蔭で今年の四月十五日をもって古河電池㈱の定年退職を迎えました。会社生活は満三十二年の歳月をどうにかおくりま

した。しかしその道は険しく、山あり谷ありの生涯でした。それは自己の進む道の取舵が肝心と思いました。先私的な欲望を押え社会のルールに合わせて行わなければ出世は難しいと思いました。今は第二の人生スタートに入りました。それで今は家事の方をあれこれとととのえ乍ら毎日頑張っております。敬具

横浜市　渡部　勉（英Ⅱ部）

結婚生活も五年目を迎えました。平成二年の二月には二人目の子どもが生まれる予定です。毎年「香葉」をいただく度に発展する母校に驚き、懐しさがつのります。来年こそと思いつつ一度も訪れずに過ごしておりますが八度目の正直は実現できるでしょうか。

横浜市　小林久美子（57国文）

早いものでもう一年たってしまいました。毎年「香葉」をお届けいただくころから、秋も深まり、今年も終りに近づきつつあります。又、冬のおとづれの近いことを感じます。

年老いた親たちの看護や介護に、心を痛めることが、現実に目の前に現れたとき、家族ではささえきれないものがあることを思い知らされました。家族とは、自分の老後とは、いろいろ考えさせられるこのごろでございます。

東京都　佐藤美代（35家政）

精神薄弱者更正施設の学園で事務をするようになって、一年がたちました。一人娘は四月から小学生になり、保育園に頼っていた部分は、互いに頑張る事によってカバーしなければならなくなりました。

どんな大人に成長するのかわかりませんが、私が働いていることが、精神面でのマイナスにならないように、心がけなければと反省しつつ、つい会話がとげとげしくなってしまい、寝顔に謝るダメな母親です。

横須賀市　布施みえ（50家政）

今年五月四日に長男を出産しました。今は短大まで歩いても行ける程の所に住んでいます。今年はまだ長男が小さいので、学祭には行けませんが、来年は是非と思っています。

長男（武彦―親の名前を安直に一字ずつとりました…）は泣き虫の甘えん坊ですが、元気で一日が、あっという間に終っていきます。でも、あそびたい……学生時代がなつかしいです。

横浜市　大沼武美（59国文）

現在四十一才になりました。今年二月に母をなくしました。寂しい日々です。独身無職です。カトリックの洗礼を受けて十年がたちました。今は教会に行くのが楽しみです。下田先生が学長になられた由、写真を見て年をとられたなあと感じました。プロテスタントではありませんが、同じキリスト教。香葉の文中にもありましたが信仰即幸福とはいえませんが聖書の中にある言葉は生きるものに力をあたえて下さると思います。バイブオルガンもそのうち是非見たいと思っています。私のような者でも神様の御心の内にいかされていると感謝しております。

大阪府　斎藤理恵子（43国文）

金沢の地に越してまいりまして三年。なつかしい母校の前を通る機会も多く、そのたびに立派になった短大館をうれしくながめながら、楽しかった青春時代を思い出しております。保育の場をはなれましてから数年。今は私も三児の母になりましたが、母親達手作りサークルで今も子供達相手にチイチイパッパとやっております。

短大時代の友人数人とは、今も時々子連れで集まってはワイワイやっておりますが、他の皆様はどうしているかしらと、最近とてもお会いしてみたい気持ちです。一度、同期会を開きませんか？　横浜市　斎藤真弓（50幼教）

就職して三年目に入り、職場の雰囲気もとても良く、毎日楽しく過ごしています。一つ上の先輩と二つ下の後輩にも同じ関東幼教出身の仲間が働いています。関東の幼教に入り幼稚園に就職してとても良かったと思っています。　鎌倉市　池田直子（60幼教）

幼稚園勤務も早六年目です。最近ようやく仕事のおもしろさをしみじみと味わえるようになってきました。やはり一生の仕事になりそうです。88年四月、カトリックの洗礼を受けました。（母校の教えが長い間ずっと心に残っていたからです。）　横浜市　廻矢幸美（57幼教）

現在ワンパク盛りの二児の子育てに追われています。次男の幼稚園のＰＴＡ会長を引き受け忙しくも充実した日々を送っています。幼児期の大切な時を愛情たっぷりに接してあげたいと思っています。（理想通りにはいきませんけど…）想い出の短大校舎、金沢八景。子育てに一段落したらゆっくり訪れて是非同窓会にも出席したいと思います。　郡山市　鈴木京子（50家政）

相変わらず専業主婦の毎日です。スイミングや旅行に出かけ、楽しく過ごしています。十一月にタイ、来年六月にヨーロッパに出かける予定です。同期の方々と時々お逢いして旧交をあたためています。　横浜市　髙橋千栄子（26英文）

三人の息子を育てながら、英語・華道・フラワーデザインの仕事をしています。今回は宮崎先生のお話を是非伺いたく楽しみにしています。パプテスト同盟でも長谷川医師を、バングラディシュに送っており、その前任の先生から現況と証しを伺いたく存じます。夫が、関東学院追浜伝導所で奉仕させて頂いております。　横浜市　大井法子（37英文）

老人ホームの三食昼寝つき生活に感謝して居りますが、持病の喘息の為に自室で発作を治めて、一見健康風に元気に食堂に出る事がむずかしい日が続きました。この十一月に入りましてからやっと治まりホームの行事にも出席できるようになりましたので、他事ながら御休心下さいませ。　綾瀬市　石守恵み（34英文）

早いもので学校を出てから20年になろうとしております。

在学中はハワイアンバンドを結成し、学内において十分に青春を楽しみました。

現在42才（私は2年遅れ20才で入学）。40才で初めて子供を授かり思いもかけず母になりました。仕事は卒業後すぐ始めたエステティックの勉強をずっと続け、現在に到っております。林学長から教えて頂いた食品学・栄養学、全てひとつもらさず十分に、十二分に生かされ、学校は楽しかっただけでなく、仕事の上でも学んだ事が生き続け、感謝しております。

林先生が学長におなりになった時、44才であったとの事、先生のあれからの活躍を思い私も教え子の一人として、気をひきしめ前向きに進みたいと思います。

『人になれ、奉仕せよ』、人には今だなれておりませんが、奉仕だけは何らかの形でしてゆき、この教えも守り、生かし続け、いつの日にか 人 になりたいと思っております。

関東学院短期大学の益々の発展をお祈りいたします。

そして林先生の今後の活躍もまた楽しみにしております。　横浜市　荒川百合子（45家政）

香葉ありがとうございました。上市先生の「覚え書」ちょうど18号ぐらいだったなと読ませていただきました。よく記録して下っているとありがたく存じました。私達のリトリート「さが沢温泉」で、その後、狩野川台風で全部流れて、今あるのはその後の建物です。相川先生、光畑先生とお世話になりましたが、今では一時代前のことのようですね。私も娘が二人、もう成人しております。数年したら退職いたします。短大の友達とはまだつきあっております。

瓜巣先生の「五郎のこと」読ませていただきました。一月に死んだ愛犬十三才でした。犬はとしとらないと機敏がわからないとか、何回も読んで、五郎の位置、先生、奥様のすわられる位置とか、頭の中で想像し、絵をかいておりました。五郎のいじらしい気持ちがさっしられました。そして迫伸で五郎の死を知り、涙が出てきました。私と犬とのつながりも深いのです。今、七ヵ月になる柴犬がいますが、五郎ちゃんのようなやさしい犬になって欲しいです。

三島市　天野京子（32英文）

どうにか仕事にも慣れ、出勤拒否にもならずに元気にすごしています。横浜から地元に戻り、遊ぶ所も無くたいくつしており、短大の頃がなつかしくて仕方がないです。早く（まだ卒業して一年もたっていないけれど）同窓会がないかな、なんて思っています。

浜松市　川村紀子（平1英文）

現在家族四人元気に過ごしてます。ボランティアの一員として微力ながら御老人の方々におはがきをおだししたり、授産所でお手伝させて頂いたり、又、趣味の短歌やアートフラワーにはげんでいます。

香葉にったない短歌おのせ下さいましてありがとうございました。

学院の御繁栄をお祈り致します。

相模原市　安藤洋子（26女専）

短大を卒業し、就職してから早三年がすぎようとしています。余裕のなかった一年目、無我夢中ですごした二年目、そして現在、二才児たんぽぽ組十一名の担任です。ひとりなのでつらい部分もありますが、子供たちの顔をみると〝がんばらなくっちゃ!!〟と思う毎日です。（本当は毎日泣いている泣き虫先生なのですが…）中田先生をはじめ、朝倉先生、小室先生、近藤先生などお元気でしょうか？

学生時代がなつかしく思われます。

P.S.　仕事のことで泣きたくなる時、なぜか朝倉先生の顔がちらつくんですよね…。元気かな？　朝倉先生…。

小田原市　米山宏美（61幼教）

つい先日まで新人だと思っていたのに、二年目ももう半分まできてしまいました。本当に時間の流れは早いものです。

私は今、ソフトの会社でＡＩ（人工知能）の開発に取り組んでおります。ただ手に職をつけたいという理由で入社したのですが、いかにそれが甘い考えだったかということを痛感しています。毎日が勉強なのですから…。けれど、社会人になって、ようやく、自分の夢は何なのか何をしたいのか見えてきたような気がします。

本校にも情報処理学科ができたと聞きました。今からやる気たっぷりの後輩を楽しみに待っています。

短大のますますの発展をお祈り申し上げます。

横浜市　川崎晴美（62家政）

クラス会報告

そろそろ子供も手を離れ、心に、時間に、ゆとりが生まれた頃、年号も変わり、青春と昭和とを懐かしむ思いが、ささやかな八人のクラス会となりました。

平成元年七月九日（日）十一時、母校正門前集合。雨の中、一人二人と懐かしい顔が集い、移転してりっぱになった母校内、チャペルを山口先生のご案内で見学し、まるで学生時代に戻ってしまったかの様でした。

先生のお年を伺うと……なんと、今年が還暦との事。

私達は、先生が関東学院女子短期大学の講師として赴任して受けもたれた第一期生でもあり、今度は是非、還暦祝い記念クラス会を開こうという話が、その日の内にまとまりました。手分けして連絡を取り合い、十八人に輪が広がり半年後の本年一月二十八日（日）十一時、山口先生の還暦祝いと、卒業二十年記念クラス会が実現し、先生のお宅に駆け付けました。

寄せ鍋を囲んでの家庭的な雰囲気の中、ついつい時のたつのも忘れて、長居をしてしまいました。夕方六時、別れを惜しみ、再会を誓いながら、それぞれに家路へ急ぎました。

家政科四十六年卒　児山（野口）和子

十月に山下公園前のザ・ホテルヨコハマにて小雨模様の中、同窓会を開きました。フランス料理に舌鼓を打ち、ボーイさんの要領の良い適度なサービスに少しの間リッチな気分を味わい、楽しい一時を過ごしました。記念撮影のシャッターをボーイさんに押してもらいましたが、こちらのサービスは、いまいちで少々ボケて撮れました。が、これは写される人々の方に多少難があったのかもしれません。先生方をお招きもせず仲間うちだけの気楽なおしゃべりに花を咲かせました。次期の選挙には打って出ようかという人、息子のガールフレンドに悩まされている人、息子自慢の人、昔モテたという人、今もなかなか捨てたものではないという人、楽しく余暇を過ごしている人、独身貴族（?）の人、等々…。少々皮肉をいい、少々悪口をいい、少々虚栄心を満足させ、少々いい子になり、と、とても賑やかでした。でも、みんな大人になり、ボロの校舎で一心不乱（?）に勉強していた若かりし頃の感情むきだしとは違い適当にオブラートにくるんだ人生論を戦わせました。元気印の今、評判のオバタリアン真最中の皆さまに乾杯。次回も全員集合ね。

家政科三十八年卒　小松（安藤）照代

クラス会便り

昨年の秋十一月十七日に八年振りに第三回目の同期会を開きました。

今回は先生方はお招びせず、クラスメイトのみで、高島屋のミーティングサロンの小じんまりとしたお部屋で十四人の会員が集まりました。人数が少なかった故為か会場が一つに纏り、趣味の話や、ダンスの話等に皆共鳴し、又孫の話になると顔中ほころばせて佳きおばあちゃま振りを発揮する等和気合々の内に時間の経つのも忘れて話がはずみました。卒業以来始めての方もいましたがすぐ想い出されて皆で懐かし合いました。

次回の幹事も選出され次の会合を期待し、

散会致しました。

なおウィークデーに開催しましたのでお仕事をお持ちの方々は出席してもらえず残念でした。

英文科三十年卒　勝（原）明子

戦後の焼け野原の中から縁あって、予科一年英文科三年の四年間三春台校舎で集い学び、春爛漫の桜吹雪の中でお別れして以来（二十五年卒）四十年を迎え様として居ります。長い様で短かかったこの年月、毎年の様にお目にかかる方、全くお逢いする事もなく本年正月旅行先の台湾で不幸な事故にあわれた旧姓矢沢さん、昨年上坂さんの訃報をお伝えしたばかりなのに悲しいニュースが続き、あらためて健康を確かめ合う一時でした。私達のクラス会はザックバランなメンバーに恵まれ、又飯吉さんのお言葉に甘え連絡と場所の設定が容易な故に、外国在住のクラスメートの帰国連絡があると、臨時招集の歓迎のクラス会を行って参りました。今回ボストン在住の旧姓原さんから御両親の法事で帰って来られる旨連絡があり、三月十六日娘エリーちゃん同伴でお招きしました。突然のお知らせにもかかわらず、遠路お出かけ下さった横山さん他万障くり合わせての皆様のお集り、この時ばかりは十代にタイムスリップして楽しい話に花を咲かせました。又最新米国事情等に国際色豊かな話題に発展して、ケンケンガクガク国会並みのにぎやかさでした。クラスの殆どが還暦を通過、楽しい話題が貴重になって参りましたが馬鹿を云い会えるこんな大切な仲間達のクラス会、いついつ迄も健康で長続きさせたいものだと筆頭幹事飯吉さんにお願いしながら、定刻オーバーの会場をあとに懐かしい伊勢佐木町をめがけて三々五々歩きました。後日談になりますが、帰国された原さんから呉々もよろしくとの感謝のお手紙が届いた事を紙面をお借りしてお伝えします。

場所　横浜市中区　相生
時間　平成二年三月十六日　十二時～十七時
人員　十二名
写真　一寸暗いのですが全員のはこれ一枚だけですので
前列右より（旧姓）馬渕、小松、原、飯島敏子、高田
後列右より、長谷川、飯島順子、出、横山、平尾、小林、中野

女専英文二回卒　平尾富子

〈英文科十二回卒〉　同期会

桜前線が東北方面へ移動し若葉が燃ゆる平成元年四月十五日卒業して二十七年、ようやく第三回目の同期会を開く事が出来ました。ローヤルウイングと言う船に横浜大さん橋から乗船「グルメ&クルーズパック」と言うタイトルで幹事四人が集まり色々準備致しました。一番の心配は、はたして何人が集まれるかでした。しかし安藤先生、兵藤先生、小玉先生の御出席を賜り二十四人なつかしい面々が勢揃い。恋愛の話、お見合いの話、子育ての苦労、色々な出会いと話は尽きずあっと言う間に時が経ってしまいました。最近短大は私達の在学当時とは大変身、校舎も新しく立派になり又運動場も整備されテニスコートも出来ましたとの小玉先

生より御報告を受け早く卒業してしまい残念にも思われました。どうにか子育ての忙しい時期から少し解放され自分の時間も持てそうな今、思い出されますのはやはり学生時代の最後の学年です。そして学生の時の義務感からでなく本当に好きな課目だけ学校で勉強したいなーと思いますのは私だけではありませんでした。次回の幹事は旧姓宝田、秋元、栗田、林さんの皆様です。住所が変更されました方、必らず香葉会に御連絡下さい。この会を始めるにあたり名簿を戴き大助りでした。

英文科三十八年卒　興津（稲村）陽子

五月会

青葉、若葉のまぶしい、さつきの季節と共に、私たち英文科二回生の集い「五月会」がやって来ます。

昨年は鎌倉の「吉亭」で器も優雅なお会席の膳を囲み、しばし歓談の後、古都の散策を楽しみました。今年は五月二十七日ぐっと趣好を変えて、横浜山手の落ち着いたたたずまいの中の「此のみち」で主婦好みのシャレた健康料理を頂いた後、若者で賑わう港の見える丘公園、外人墓地へと足を延ばしました。今回の参加者は十三名。卒業以来いつしか三十七年の年月が流れ、それぞれに人生の変遷を経ていぶし銀の様な深みを増してきています。（自画自賛！）

商社ウーマンを勤め上げリタイヤー後は、香葉会にボランティアに活躍の吉屋さん、大病後の今も英語を教え続け浜松から駆けつけた御園さん、教え子のその子供達を教えている幼稚園のおばあちゃん先生加藤さん、三十余年もお姑さんと共に暮しながら旧家を切り盛りしている佐竹さん、七年間も寝た切りのお母様を自宅で看病し続けて見送った宮島さん、英語を教えながらパッチワークに編物に体操にと活躍の内尾さん、いつもお手製のスーツでバッチリ決めて現われる川勝さん、ロンドンにウィーンにとインターナショナルなお話が飛び交っている秋葉さん、藤田さん、久し振り香港帰りの確井さん、先生だった御主人を早く亡くされ今は親子で教壇に立っている松崎さん、機械オンチながらパソコンを使って点訳奉仕に頑張っている古川さん、学生時代と変らぬしとやかな小島さん等々、みなキラキラと輝いています。かつて学んだ校訓「人になれ、奉仕せよ」の精神はまだ私たちの心の底でフツフツと発酵を続けています。

賛美歌と短いお祈りによって始まるこの会は私たちの青春へのノスタルジーであると共に喜びも悲しみも分ち合って来年の会へ向けての活力を養う源ともなっています。やっと自由な時間が持てる様になったこの頃、そろそろ鈴木さんの住むアメリカで「五月会」をしましょうとの声も出ています。

長い人生の道のりの中で学んだのは、たったの二年だったとはいえ、よき学びの場でよき友に恵まれたことの幸せを胸に、家路へと向かいます。

英文科二十八年卒　柳生二三

“県央のつどい”への御案内

学生時代の、社会人になってからの、サークルの、友人達何人かが偶々集まって“こんな楽しい会合ならこれから毎年しましょう”と固い約束を交わす事もままあります。そして２年目都合の悪い人数人、３年目風前の灯となりやがて消滅ということも多いのではないでしょうか？　そんな中“県央のつどい”が今年10回目を迎えようとしております。

県央って？　相模の国として歴史的にも由緒ある名所旧跡を多く有し西に丹沢大山国定公園をいただく広ーい地域：伊勢原、秦野、相模原、厚木、海老名、綾瀬、大和等々の総称であります。さてこの会がどんな経緯で発足の運びとなったか会報の一部をご紹介しましょう。

“オリーブの葉”の校章、「人になれ、奉仕せよ」の校訓のもとに学んだ県央地区の仲間が一堂に会し一杯飲みつつ語りあい親睦を深める機会を作りたい”これが支部設立の第一歩でした。そして会報第２号には“昭和56年秋発足しましたがこのつどいには学院から高野理事長、柳生学院長、藤本学長をはじめ教授や燦葉会、香葉会本部の方々も多数ご出席頂き……10年前初めての案内を頂いた時うかつにもよく改めないでしまったことが悔まれます。高等英文法の授業で“開校以来出来の悪い生徒”ときついお言葉をうけながら、追試の温情で卒業させて頂き、又課外ではシェークスピア劇の御指導を熱情をもってして頂いた柳生先生もこの“つどい”にご出席であったのです。

友人と身辺の輪を少し広げようと語らって出席したのが第６回目、お目にかかってお礼を申し上げたかったのに。

この会は燦葉会、香葉会双方からの何人かの幹事で運営されておりますが、殆ど燦葉会の方々で運営され香葉会はマドンナとして大切にされております。

大学の清水教授をはじめ社会的にも責任のある地位の方々がお忙しいスケジュールの中“つどい”のために時間をさいておられます。こんな長くこの“つどい”が続けられたのも偏へに燦葉会の皆様のお力によるものと思います。香葉会もがんばってこの“つどい”の中での地位を築いていきたいと願っています。年々増える後輩達のためにも。

この香葉をお読みになられた方会費に見合うお料理もですが、あの熱い思いで未来を語りあった昔の仲間に会ってその後を語りあえるよろこびには代価はつけられません。

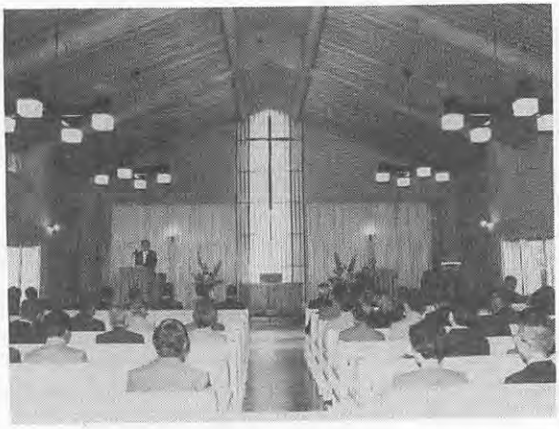
当該地に居られる方、又新幹線や飛行機に頼らずにお出かけいただける方、次回のお誘いにはまずはのってみてください。**何といっても今年は10周年ですから！11月17日(土)を予定しています。**

小　林　　麗（英５回卒）

連絡は関東学院女子短期大学香葉室まで　045（784）1491　内線.216

坂田記念館　完成！

卒業生が待ちに待った坂田記念館が、遂に出来上り、去る六月十四日、献堂式が行われました。皆様にはご案内出来ませんでしたが代表の者が出席しました。二階に霞ヶ丘教会の礼拝堂、集会室、牧師室等があり、一階が記念館と厨房になっております。記念館の正面壁面の一部に坂田祐先生の胸像が飾られ、周囲はガラスケースになっております。その内、このケースの中に先生ゆかりの品々が飾られることになります。合同同窓会が記念館の為に寄附した、一千万円は、このケースの設置に用いられましたので、寄贈の銅版のプレートが、各校同窓会の名前入りで、取りつけられております。京浜急行の黄金町駅から三春台キャンパスに登る途中に建てられましたので、見晴らしの大変良い場所です。



管理規定がまだ決まっていないので、見学するためには、高校の事務所に申し出て、鍵を明けてもらう事になるそうですが、是非一度ごらんになって下さい。坂田先生記念の品々が展示される迄、今しばらく時間がかかりますが、将来は同窓会でも利用出来る施設になることを願っております。坂田先生の学校へのご寄附により立派な会館が与えられましたことに深く、感謝しつつ、ご報告します。

（古城記）

母校ニュース

池田　桂子　さん
英文科
英文科昭和六十三年
度卒業

小林　正枝　さん
家政科
家政科食物栄養専攻
平成元年度卒業

〈開かれた女性の為に……
公開講座、講演会　盛ん！〉

短大では公開講座を始め、多彩な講演会が開催されています。本誌の発行時期の関係で事前にはお知らせできませんでしたが、本年度の公開講座は「女性と生活文化――くらしの中の経済知識――」と題し、十月三日(水)に開講しました。毎年九月始め頃に募集しておりますので、受講をご希望の方は、短大入試広報課までお問い合わせ下さい。

○四五―七八四―一四九一

〈新任教職員紹介〉

板垣　綏(タモツ)　先生
経営情報科教授
立正大学卒業
（本学第二部英文科
卒業生）
経営管理論他担当

岸　正尚　先生
国文科講師
早稲田大学卒業
国文演習Ⅰ他担当

菊池　美恵子先生
幼児教育助教授
立教大学大学院卒業
教育学概論他担当

レスリー・
ターリー先生
英文科講師
マーシャル大学卒業
英会話　担当

編集後記

「香葉」を発行し、今年で十九号を迎えることができました。毎年最初の計画をたてる時は暗中模索のスタート。会員の皆様から送られてくる葉書や原稿がたよりの編集委員です。昨年は、誌面の都合「香葉室」――皆様の近況を載せることができませんでした。今年は、しっかりと載せることができました。年代別・学科別といろいろな方々をと思っております。

さてさて来年は記念すべき二十号です。皆様からのたくさんのお手紙を楽しみにしております。同封しました葉書に記載して下さっても結構です。又、何か御意見や質問・案などがございましたら、香葉会の方へ連絡をいただければ幸いです。

今号、記事を書いて下さった先生・会員の皆様、御協力ありがとうございました。今後共、よろしくお願いいたします。

香葉編集員一同

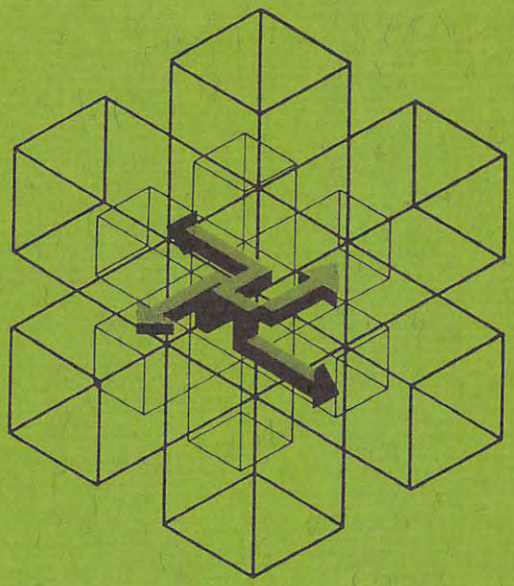
平成元年度決算				平成2年度予算
収入の部	予算	決算	増減	予算
会費	(@10,000×870) 8,700,000	8,700,000	0	(@13,000×853) 11,089,000
名簿代	(@2,000×870) 1,740,000	1,740,000	0	0
賛助金	500,000	675,000	△ 175,000	500,000
委託販売手数料	450,000	450,000	0	0
預金利息	10,000	29,939	△ 19,939	10,000
雑収入	5,000	9,500	△ 4,500	5,000
前年度繰越金	1,625,891	1,625,891	0	1,930,870
合計	13,030,891	13,230,330	△ 199,439	13,534,870
支出の部	予算	決算	増減	予算
通信費	2,200,000	1,828,996	371,004	2,300,000
印刷・製本費	1,500,000	1,173,276	326,724	1,500,000
総会・会合費	1,000,000	892,189	107,811	2,000,000
交通費	500,000	266,040	233,960	500,000
用品費	100,000	34,345	65,655	100,000
備品費	50,000	54,128	△ 4,128	70,000
委託費	50,000	0	50,000	50,000
謝礼費	350,000	316,849	33,151	350,000
消耗品費	40,000	10,302	29,698	50,000
人件費	1,500,000	1,472,700	27,300	1,600,000
合同同窓会分担金	(@300×870) 261,000	261,000	0	(@300×853) 255,900
新入会員歓迎費	1,200,000	1,012,284	187,716	1,300,000
名簿発行準備金	2,450,000	2,450,000	0	2,450,000
特別会計	500,000	500,000	0	500,000
雑費	29,891	6,169	23,722	58,970
予備費	300,000	246,890	53,110	150,000
慶弔費	0	0	0	300,000
林先生感謝会	1,000,000	774,292	225,708	0
(小計)	13,030,891	11,299,460	1,731,431	13,534,870
次年度繰越金	0	1,930,870	△ 1,930,870	0
合計	13,030,891	13,230,330	△ 199,439	13,534,870

賛助金をご寄付くださった方へのお礼とお願い

今年も後記の方々から総額「六十六万一千円」をお送り頂き、厚く御礼申し上げます。諸物価の値上げにより、年々「香葉」の発行がむずかしくなってまいりましたが、卒業生唯一の雑誌をなくしたくないと、編集員一同がんばっておりますので、今後共賛助金の御協力をよろしくお願い致します。

一九八九年度賛助金寄付者（敬称略）

高橋美佐子　澄谷亮子　土岐房子　渥美裕子
武井勢津子　斎藤道子　戸田妙子　児山和子
中谷久美子　作山智子　三村勝美　関根　薫
森野恵理子　志村敏子　見目光江　渋谷洋子
福間世紀子　石井園子　佐藤美香　浅葉勝美
竹内智恵子　漆畑晴枝　松倉恒夫　南　明子
重田千代子　須田広子　笠木茂伸　飯吉玲子
佐々木清唯　石濱京子　石渡好子　川島久里
苗加利毅彦　鵜島修男　髙山政子　佐藤美代
清田恵美子　水城和子　都竹道美　松田良子
青木美智子　山口文枝　尾川昌子　積田昌子
三浦美和子　太田靖子　八木節子　梅田玲子
濱田二三栄　角田恵子　城かよ子　徐多恵子
加藤さやか　藤城栄子　福崎浩子　住吉桂子
主馬野敦子　大坂恵子　前田博子　鈴木幸子
小林三恵子　寺内雅子　玉木宮子　重藤周子
梅山フク江　和田澄江　石渡朝子　鈴木千春
大竹真理子　三沢葉子　稲垣愛子　島田郷子
中野ノブ子　倉成宏子　古城房子　藤田久代
芦部九女夫　片方教子　水田啓子　河原篤代
菅原千代子　足立求子　田辺和子　柳川礼子
五十嵐京子　葛城容子　根城展代　木村燁子
高橋美知子　中島雅子　野口信子　杉山愛子
佐藤美和子　菊地和子　熊谷君代　口林祐子
大橋由美子　斉田実子　大林佳江　稲毛洋子
山本恵美子　菅野弘恵　中川洋子　石井裕子
荒川百合子　大井法子　土山　忠　高橋静子
古畑美佐子　石川清美　小島美浹　前田純子
佐々木晶美　有田玲子　鈴木京子　堤　由美
生亀喜久松　吉川雅子　長崎洋子　中里玲子
池田久美子　小田牧子　石守あみ　細野清美
森野恵理子　谷山章子　小野ふみ　納所節子
飯塚まり子　安藤憲子　鶴見智子　松上尊代
金子美智代　早野佳恵　亀井仁恵　土屋幸枝
上川奈緒子　小林　麗　遠藤真澄　田渕峯子
熊田眞知子　岡嵜幸恵　岩掘迪子　山内晴美
佐々木涼子　遠田順子　越智協子　堤しづや
滝沢キミ子　本田憲代　吉田年江　加藤紀子
吉原千恵子　髙橋秀子　山口周子　石塚則子
曽我かおる　渡部　勉　井田玲子　斎藤節子
杉崎日出子　當麻恵子　山本長生　相原梅子
田辺芙紗子　安田静子　沖田繆子　大金津義
日原美登里　篠原繁治　中西愛子　安彦潤子
二見アイ子　真貝文子　吉屋保子　佐藤洋子
岩野由美子　田中久恵　三富正枝　寺岡利子
斎藤理恵子　飯島敏子　内山道子　志賀ミチ
石垣むつみ　佐藤久子　柳生二三　飯田染子
岩木由紀子　小島純子　中村仁美　雨宮慶子
島影志津子　染谷美加　古郡綾子　松友明見
鈴木恵美子　小林直美　関戸恵子　相吉典子
室永ヨシ子　石田禎子　東頭寿子　山本美子
肆矢三佐子　平尾富子　辰沼滋子　益　昌子
森田吉世江　早田妙子　堺　典子　渕上龍美
江成千恵子　原　央子　田牧洋子　小柳弘子
長谷川有紀　井上文枝　茅　昌子　石橋光代
後藤美和子　五十嵐増枝　塚田由美子
坂井紀美江　宮澤久美子　関谷由利子
千川奈緒美　瀬之間千春　増田安喜子
井上多恵子　岡部安郁子　錦織マサ子
福田しほり　喜多村不二子　長谷川不二恵
向山恵都子　中津川久美子　佐久間麻砂美
鈴木トク子　田丸瑠実子　金子美佐江
英文十二回卒同期会有志



後輩へ就職求人を！

本学卒業生の就職については、卒業生の実績が実を結び、毎年卒業予定者の2～3倍に達する求人があり、各科共百パーセントに近い成績をあげています。しかし、地方出身者に関しては、短大卒業生を受け入れる職場が少ないのです。そこで、高校卒業生に比較し、対人応待等に優れ、即、戦力化し易い短大卒業生、皆様の後輩採用を、皆様及び皆様のご主人に是非、ご検討いただきたいのです。

短大生ご採用のお話しがございましたら、下記就職課迄、ご連絡いただけますように、お願い申し上げます。

〒236 横浜市金沢区六浦町4834　Tel（045）784－1491　内258・281
関東学院女子短期大学就職課

香葉 第19号

平成2年9月25日　印刷・発行
関東学院同窓会・香葉会
代表者　古城房子
横浜市金沢区六浦町4834　郵便番号236
関東学院女子短期大学内
電話《045》784－1491　（内線216）

関東学院同窓会・香葉会誌